

林野庁による平成26年度村内人工林の間伐等再開に向けた実証試験について

村内の森林では、震災以降、森林整備や林業生産活動ができない状況にあります。本来必要な森林整備が行われないことで、森林の水源としての機能や、災害防止機能の低下が懸念されます。

こうした中、林野庁では、村における人工林の間伐等の再開に向けて、作業者の被ばく低減対策などの実証試験を行いました。



人工林と間伐について

森は、大きく天然林と人工林とに分けられます。スギやヒノキなどの人工林は、まっすぐな木を育てるため、1haあたり、3,000～1万本もの苗を植えます。これを、木の生長に合わせて、10年後、20年後という期間毎に間引きすることを**間伐**、間伐によって得られた材木のことを**間伐材**といいます。

○主な実証試験内容

実施時期：平成26年10月～平成27年2月

実施場所：二枚橋地内村有林

- 人工林間伐等における作業者の安全対策
- 伐採木等の林内活用を通じた放射性物質の拡散抑制策の実証
- 樹木等に含まれる放射性物質濃度の把握



○実証試験の主な結果

伐採した樹木を分析した結果、葉には約4,500Bq/kg、枝には約9,000Bq/kg、樹皮には約16,000Bq/kgの放射性セシウムが含まれていました。幹（木材部分）は、心材部が約280Bq/kg、辺材部が約650Bq/kgであり、木材として使用しても問題ない程度^(※)であることがわかりました。

※木材として使用して問題ない程度 林野庁が公表している「床・壁・天井の全面に木材を使用した居室を想定して被ばく線量を試算した結果、木材の濃度が890Bq/kgであっても被ばく量は年間0.02 mSvと人体への影響はほとんど心配ない」の意味です。

区分		地上部				
		葉	枝	樹皮	幹(心材)	幹(辺材)
放射性物質濃度 (Bq/Kg)	セシウム 134	1,070	2,150	3,820	70	160
	セシウム 137	3,460	6,840	12,040	210	490
	計	4,530	8,990	15,860	280	650

○今年度の予定

林野庁からは、平成27年度についても村内の広い範囲から主要な樹種を採取するなどして、引き続き林業再開に向けて必要な技術の実証を実施する旨、報告がありました。

村農業の再生誓う

飯舘村農業委員会委員選挙

任期満了に伴う村農業委員会委員選挙が6月30日告示、7月5日投票の日程で行われ、定員14人に対し立候補者11人だったため、無投票での当選が決まりました。また、各種団体からそれぞれ推薦された4人が委員に選任されました。

これを受け、7月9日、村役場本庁舎において改選後初の委員会が開かれ、会長に菅野宗夫委員、会長職務代理者に鈴木秀範委員が就任しました。会では「村の農業再生に向けて農業委員一同、精一杯尽くしていきたい」と会長が決意を述べました。今回、就任した農業委員の任期は、平成30年7月7日までの3年間です。



▲7月6日、飯野出張所において当選証書が授与されました

委員紹介 (敬称略)

(新：新人) (再：再任)
(行政) (担：担当地区)

会長



菅野 宗夫 (再)
(佐須)
○佐須

会長職務代理者



鈴木 秀範 (再)
(上飯樋)
○上飯樋



高野 光雄 (新)
(小宮)
○小宮



西尾 ツネ (再)
(二枚橋・須萱)
○前田
二枚橋・須萱



杉浦 光一 (再)
(伊丹沢)
○伊丹沢



武沢 一幸 (再)
(草野)
○草野



菅野 智 (再)
(宮内)
○宮内



新妻 幹男 (再)
(蕨平)
○長泥
蕨平



菅野 和彦 (再)
(比曾)
○比曾



小林 稔 (再)
(前田・八和木)
○前田・八和木
大久保・外内



古川 良一 (再)
(飯樋町)
○飯樋町

各団体等推薦

そらま農業協同組合



八巻 誠 (再)
(草野)
○関沢



山田 猛史 (再)
(関根・松塚)
○関根・松塚
白石



末永 瑞夫 (再)
(深谷)
○深谷



佐藤 一郎 (新)
(大倉)
○八木沢・芦原
大倉

相馬地方農業共済組合

村土地改良区

村議会